

福岡県「サステナブルな食品輸送の実現へ」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年12月9日(水)15:00~17:00
2. 場所：福岡県 TKP ガーデンシティ博多新幹線口
3. 登壇者：
農林水産省 大臣官房輸出促進審議官（兼食料産業局）池山成俊
全国農業協同組合連合会 参事 金子千久
全国農業協同組合連合会 福岡県本部 園芸部 部長 木下裕二
北九州青果 代表取締役社長 百合野博
三甲リース株式会社 新規事業開発室 課長 川村友規
全日本トラック協会 副会長 馬渡雅敏
流通経済大学 教授 矢野裕児

(プログラム)

1. 講演①「食品流通の合理化の必要性と対応について」池山成俊
2. 講演②「九州産青果物の物流課題と今後の対応について」金子千久
3. パネルディスカッション「九州モーダルミックス構想の推進に向けて」
ファシリテーター 池山成俊
パネリスト 金子千久／木下裕二／百合野博／
川村友規／馬渡雅敏／矢野裕児
4. 閉会 池山成俊

* 敬称略・順不同

1. 講演①「食品流通合理化の必要性と対応について」

食品流通の現場では、人手不足や新型コロナウイルス感染防止への対応など、さまざまな課題を抱えており、食料の安定供給を確保するためにもサステナブルな食品流通体制の構築が求められています。

今回のシンポジウムでは、九州で持続可能な物流を確保するために取り組まれている集約物流拠点を利用した共同輸配送やフェリー・RORO 船を活用したモーダルシフトの体制作りに関して、産地、物流事業者、卸売市場等の皆様に議論いただき、有効な手を整理し、全国へ普及されることを期待しています。

2. 講演②「青果物流の現状と今後について」

九州産の農産物は、全国でも高いシェアであり成果物を見ても関東、近畿市場に多く出荷

されています。九州の物流課題は、関東市場から遠方にある産地のため、運送にあたるトラックドライバーに係る改善基準告示なり時間外労働の上限規制の遵守に苦慮する環境にあることです。

課題解決に向けた取組みとしては、一つは、県域を越えて荷物をまとめて運ぶための施設（ストックポイント）整備であり、もう一つは、トラック輸送とフェリー・JR コンテナ等を組み合わせたモーダルミックスによる運行負荷軽減です。

この課題を解決する方法の 1 つが、ストックポイントの設置とモーダルシフトの拡大です。JA グループでは、九州における県域を越えたをすることを考えており、現在、各県域と実現に向けた検討を行っています。このストックポイントから共同配送する際には、フェリー等のトラック以外輸送手段の利活用も進めていきます共同配送やモーダルミックスを推進するうえで重要な要素がパレット化であり、JA グループでは、レンタルパレットを活用した循環型パレットシステムを検討しています。これは、北海道のシンポジウムでもあげられた契約等により発荷主と着荷主が責任と負担を共有する仕組みであり、パレット化に必要な段ボール規格の標準化もあわせて推進していきます。

3. パネルディスカッション「九州モーダルミックス構想の推進に向けて」

①金子

九州のモーダルシフトや共同配送を検討するため、九州全県の県農協、経済連、県本部による園芸物流合理化推進協議会を設置しております。今までは、各 JA が独自で運送会社を手配しておりましたが、今後 JA 単位での対応は困難になると考えています。そのため、協議会では JA 域を越えた県域での物流改善の共有や、県域を越えた広域での連携について協議を行っています。また、九州のみならず全国的な取り組みとして、東北・中国・四国ブロックにおいても同様に協議会を設置し同様の取組みを進めています。

パレットの使用に関しては、加工食品業界での 99%を越える回収率がある一方、青果物については 90%を下回ることもあります。それを引き上げていく程度以下にとどまっていますどのようにかが重要と考えます。そのためには、パレットレンタルにおける責任と負担が明確化されるような名義変更の仕組みの構築やそれに伴う IT ツールの整備が必要となります。また、産地の立場としましては、パレットサプライヤーごとに使用しているシステムが異なっているため、業界内での統一されたシステムが構築されればと思います。

②木下

農家の営農と生活を守るため、コストをいかに抑制するかは産地の荷主において必要な取り組みであることも理解していただきたい。

福岡県で生産される品目は果菜類や葉物など容器にバラ詰めできない軟弱軽量物が中心です。これまでは運ぶことよりも売りやすさや傷みの軽減など、お客様のニーズに合わせて出荷形態を開発してきましたが、11 型パレットに合わない容器サイズになっている要因と

なっています。

持続的な運送を確保するため、冷蔵施設を保有した広域のストックポイントでの集荷、モーダルシフトを活用した輸送体系の構築、パレット輸送にも取り組んでいかなければならないと考えています。

③百合野

ストックポイント候補の北九州市中央卸売市場は、24 時間 365 日、荷物を受けることも、出すことも可能です。新門司港まで高速道路を使えば約 30 分なので、モーダルシフトも進めることができます。

課題もあります。第一に荷下ろし作業の効率化。第二に物流拠点としてのお墨付きとそれに対応した施設化、第三は低定温冷蔵庫の拡充です。

荷下ろし作業の効率化にはパレットの採用、荷物を積み替える施設の充実を図るなどハード面の改善をするとともに、IoT の活用を含めたソフト面の整備を進め、ストックポイントとして機能させられるよう、前向きに取り組んでいきたいと思います。

④川村

三甲リースは三甲が製造したパレットやコンテナ、折り畳みコンテナのレンタル会社です。当社のレンタルパレットは RFID タグを装着しており、個体管理を実施。移動情報の見える化を実現しています。

トラックの積載効率を高めるために推奨しているのが、T11 型パレットです。パレット化すると、荷降ろし時間が 87% 減少するという結果も出ています。

課題は産地や卸売市場においてパレット枚数の管理や保管が必要になることです。農産物パレット推進協議会で設定した共通ルールの徹底を図り、成果物輸送のパレット化に取り組んでいきたいと思います。

⑤馬渡

厚生労働省が策定した改善基準告示に従って運行を続けておりますが、長距離の場合はそれを遵守するのが難しくなっています。荷箱のパレット化を推進するとともに、市場やスーパーの方々もパレットの返納をきちんとしていただく仕組みについて考えていただきたいと思っております。

納品のリードタイムが厳しければトラック輸送はなく続けられません。品質やパレット管理を行うための RFID の導入、労働時間の短縮を図るための全線高速道路の使用について、皆さんもご支援ください。

⑥矢野

ドライバー不足は、単にドライバーを確保すればいいということではなく、物流の仕組

み自体を変えることが重要になります。

物流の生産性を上げるための一つの方策は荷役時間を減らすこと。その解決策が標準化されたパレットの活用です。

そしてモーダルシフトと幹線輸送の集約化です。600km以上の輸送はフェリーやRORO船、鉄道を組み合わせていくことです。幹線輸送の集約化は、個別でやっていたものを計画化していく視点が重要になるでしょう。

物流事業者だけではなく、発荷主、着荷主、さらには消費者も含めてサプライチェーンを考える必要があります。

⑦池山

オール九州でのモーダルミックス構想を皮切りに、全国各地でサルテナブルな食品輸送のための取り組みが加速しています。消費者にとって豊かな食生活が実現するよう、私ども農林水産省としても、国土交通省や経済産業省をはじめとする関係省庁、自治体と連携して、強力に推進していきたいと思えます。

以上